

千葉農業事務所

普及だより

URL <http://www.pref.chiba.lg.jp/ap-chiba/>

【第140号】 2015年3月1日

発行：千葉農業事務所改良普及課

千葉農業改良普及事業協議会

千葉市緑区大金沢町473-2

(千葉農業事務所 分庁舎)

TEL 043(300)0950

FAX 043(293)2710

E-MAIL chibaaec@pref.chiba.lg.jp



若い力が地域を変える!



農業事務所では、経営体育成セミナー修了程度の若手農業者を対象に、より専門的な技術習得を目的とした「スキルアップ研修」を行っています。

昨年度、酪農コースの研修を開設し、今年度はさらにイチゴコースを加えて二コースで実施しています。

◆酪農コースは、飼養管理能力の向上と千葉、八千代、市原の三市のネットワークづくりを主目的に、三つの青年団体を対象に実施しています。地域住民との共生を学びに都市型酪農の先進農家を視察したり、講師を招いて飼養管理研修会を行ったりしました。

◆イチゴコースでは、直売や観光に取り組む生産者を対象に、生理生態や育苗、本ほ管理といった栽培管理技術向上のための講習会や優良農家視察を実施しました。次年度は売れる観光・直売経営を目標に、顧客管理等、経営管理能力向上のための研修を中心に行う予定です。

農業事務所では、若手農業者の経営管理能力向上を目的に、就農段階に応じた支援を行ってまいります。



老舗のニンジン産地を守り抜く！

～習志野市

廣瀬博和さん

れる高品質の春夏ニンジンを生産するまでになりました。

◆地域の仲間と

インショップ販売へ挑戦

廣瀬博和さん（三十三才）は、習志野市鷺沼で、春夏ニンジン六〇aとスーパーのインショップ等直売向けにエダマメ、オクラ、ネギ、トウモロコシ等を栽培しています。労働力は本人と母の二人で、ニンジンの収穫期には臨時雇用を入れていきます。

◆技術の先生は

地域の指導農業者

平成十八年、大学卒業と同時に就農しました。数年後、頼りの父が他界したこともあり、ニンジン栽培の技術は、自分で習得していくしかなかったといえます。そんな時、地域の指導農業者の方々が、一から技術を教えてくださったそうです。さらに持ち前の探究心と趣味の剣道で鍛えた集中力を発揮し、現在では、地域でも一目置か

◆ニンジンは地域の誇り

都市化の中での直売は、農業経営の中でも大きな魅力の一つです。一方で、経営の柱となるニンジンは大正時代から当地で盛んに栽培されてきた品目で、戦前から首都圏の食を支えてきました。高品質生産を続けて今後も産地を守っていききたいと廣瀬さんは語ります。未来の地域リーダーとして、益々のご活躍が期待されます。

ネギアザミウマの薬剤抵抗性に注意！

～薬剤感受性検定結果～

ネギアザミウマについて、平成二十四年に農林総合研究センターが発表した薬剤感受性検定結果について紹介します。

なお、本検定は、千葉市内で採取した個体を用い、室内検定を行ったものです。地域間・個体群間で薬剤感受性に差があること、室内検定の結果は野外での実際の防除効果と必ずしも一致するものではないことについて、ご理解をお願いいたします。

◆ネギアザミウマについて

ネギアザミウマは、ユリ科・アブラナ科・ナス科等の幅広い植物に寄生する重要害虫です。ネギ等にカスリ状の食害痕を残し、商品価値を著しく落とします。また、ウイルス病も媒介します。

◆防除体系について

ネギアザミウマは世代交代が早く、薬剤抵抗性の発達が非常に早い害虫です。そのため、効果が低下している薬剤がいくつもあります。薬剤抵抗性の発達を防ぐためには、同じ薬剤・同じ系統の薬剤の連用は避け、異なる系統の薬剤をローテーションで散布しましょう。

①定植時 効果の高い粒剤を施用
②定植後 異なる系統の薬剤を定期的に散布

◆薬剤の殺虫効果について

試験結果は、表1の通りです。なお、ネオニコチノイド系の薬剤については、地域によって効果が大きく異なっていると報告もあります。

実際に農薬を使用する際は、農薬のラベルを確認し、適正に使用しましょう。ご不明な点は、千葉農業事務所までお問い合わせください。

表1. 各薬剤の殺虫効果

| 系統 | 薬剤名 | 希釈倍数(倍) | 補正死虫率(%) |
|----------|-------------|---------|----------|
| ネオニコチノイド | モスピラン顆粒水溶剤 | 2,000 | 27 |
| | スタークル顆粒水溶剤 | 2,000 | 64 |
| | アクタラ顆粒水溶剤 | 2,000 | 44 |
| スピノシン | ディアナSC | 2,500 | 100 |
| | スピノエース顆粒水和剤 | 5,000 | 93 |
| マクロライド | アフーム乳剤 | 2,000 | 93 |
| | アニキ乳剤 | 2,000 | 18 |
| その他 | ハチハチ乳剤 | 1,000 | 85 |
| | プレオフロアブル | 1,000 | 93 |
| | コルト顆粒水和剤 | 4,000 | 14 |

※補正死虫率が高いほど殺虫効果が高いことを示す

経営発展のヒントをつかめ！

「アグリトッププランナー研修会」

農業事務所では、規模拡大や雇用導入、販路拡大等による経営発展を目指す若手農業者の育成支援を目的として、十月二十九日に視察研修会を開催しました。

研修会には十九名が参加し、茨城県鉾田市の二人の若手農業経営者を視察し、活発な意見交換が行われました。

◆ナガイモ五haの専作経営

みのわりゆう
箕輪竜氏はナガイモの専作経営

を行ってしています。科学的知見に基づく施肥による品質向上と、出荷形態の工夫による有利販売、社会保険、有給休暇の導入による雇用の安定確保を実現していました。目標は日本一のナガイモ農家です。



写真中央が箕輪氏（ナガイモほ場にて）

◆サツマイモ二〇haの大規模経営

おなまとしひろ
小沼俊弘氏はサツマイモを中心に

ジャガイモ、ダイコンを組み合わせた経営を行っています。主力のサツマイモでは、食味向上と、規格に応じた多様な販売ルートでの確保による有利販売、作業の分業化で労働効率を高めた働き方を実現していました。目標は高品質で手頃な価格のサツマイモを安定的に供給する、農業界のユニクロです。

◆今後の経営発展の糧に

視察した二人は共に三十二歳の若手農業経営者ですが、明確な経営理念を持ち、品質の向上、雇用導入、販路の多角化等に取り組み、経営規模を拡大してきました。

参加者からは、「意識の高さに刺激を受けた。」「将来を考えて雇用についてもっと勉強したい。」等の意見が多く聞かれ、将来の進むべき方向性を考える上で大変有意義な研修会になりました。

農業事務所では、引き続き経営発展に積極的に取り組む若手農業者を応援していきます。

農業士・

指導農業士認証

十一月十二日、千葉県庁において千葉県農業士・指導農業士認証式典が開催されました。

千葉管内で今回新たに認証された皆さまを紹介します。

これからの一層のご活躍を期待します。

指導農業士



みやざきもりよし
宮崎守良さん

八千代市
果樹
(日本ナシ)

農業士



おおつかひでゆき
大塚秀行さん

千葉市
施設・露地野菜



いとうゆうすけ
伊藤裕介さん

千葉市
酪農



ねもとゆうすけ
根本雄介さん

市原市
水稻・特用林産物
(シイタケ)

全国担い手育成総合

支援協議会長賞受賞！

千葉市 中川光男さん

中川光男さんは、千葉市若葉区で母豚一〇〇頭の肥育豚一貫経営をしています。



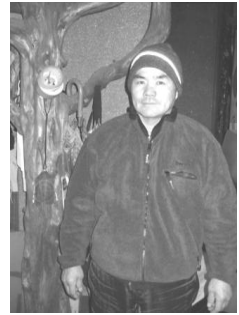
昨年十一月に開催された全国担い手総合支援協議会主催の優良担い手表彰において、個人部門で「全国担い手育成総合

支援協議会長賞」を受賞しました。さらに千葉県農業経営基盤強化優良担い手表彰・優良個人部門も受賞しました。

受賞のポイントは、高い飼養管理技術と、平成十六年から開始したソーセージ等の委託加工による付加価値化、さらに、市原養豚研究会等に所属し、組織活動にも積極的に取り組んでいるところが評価されました。経営のトップリーダーとして今後のご活躍が期待されます。

地域との発展を目指す経営を！

（南）北見畜産
北見則弘さんきたみのりひろ



自身の経営する
直売所「里見庵」にて

市原市石神で養豚経営を行う（南）北見畜産の経営発展と、経営主の北見則弘さんの仲間や地域と連携した活動を紹介します。

◆就農、経営発展から見えてきた地域との共同の重要性

北見さんは就農後三年間兄弟の横浜農場で働いた後、市原市畜産団地で、独立して経営を開始しました。

計画的に規模拡大を進め、現在六〇〇頭一貫、年間出荷約一万一〇〇〇頭の大規模経営を確立しました。

この間、高品質飼料の共同開発・利用の推進、販売会社設立への参画等を養豚仲間と行い、コスト削減、販売強化を推進してきました。そして経営発展を進めるなかで、生産者が共同で事業を行うことの重要性や、生産環境の維持や経営を多角化する上で、地域と共同する重要性を感じてきました。

◆市原の飼料米で育てた「こめ豚」を販売

今年も地元営農組合から飼料米を購入し、これを飼料に混ぜ、給与しています。そして育成した豚を、「こめ豚」として生協へ契約出荷しています。これは自給飼料の促進とともに、飼料米生産者や生協組合員との顔の見える関係を重視したものです。まだ配合方法等に課題があるものの、来年はさらに利用量を増やす計画で、市原ひいては日本農業を守る取り組みになると考えています。

◆加茂菜漬けを全国区に！

集落の地域活性化グループである「一九会」会長を務め、現在「加茂菜漬け」の定着と販売促進に努めています。毎年消費者を交えての加茂菜漬け講習会を、地域の他グループと連携して行うなど、「市原Ⅱ加茂菜」が連想されるほどの浸透を目指しています。

◆視野は広く、活動は深く！

全国養豚協会役員から、地元サッカークラブのコーチまで、広く世の中を見渡す北見さん。今日もまた、地域活性化のリーダーとして真摯に取り組んでいます。

農業経営について学ぼう！

農業経営体育成セミナー 新規受講生募集中

経営体育成セミナーとは農業事務所が主催する青年農業者を対象とした3年制の勉強会です。月に一度ほど集まり、講義や優良事例の視察などを行います。共に農業に取り組む同世代の仲間と交流を深めながら、知識の習得や技術の向上、そして、経営計画の策定を最終目標に取り組みます。

対象はおおむね35歳までの若手農業者です。経営内容は問いません。興味のある方は農業事務所までお気軽にお問い合わせください。



青年就農給付金

既に就農している後継者でも要件を満たせば助成が受けられます

45歳未満で農業を始めようとする方を応援します。

◆青年就農給付金（準備型）

・県立農業大学校や県が指定する先進農家・先進農業法人等で研修を受ける方で、給付の要件を満たす方が対象です。

・給付額 年間150万円（最長2年間）

・窓口 千葉農業事務所企画振興課 (Tel 043-300-1985)
もしくは農林水産部担い手支援課 (Tel 043-223-2904)

◆青年就農給付金（経営開始型）

・新規に農業を始めてから経営が安定するまでの方で、要件を満たす方が対象です。

・給付額 年間150万円（最長5年間）

・窓口 市町村農政担当課

※詳しい要件等は、千葉県ホームページ（「青年就農給付金 千葉県」）で検索、「事業パンフレット」を参照をご覧ください。